京大広報

No. 627　2007.10

全学教育シンポジウム
ー関連記事　本文2470ページー

目次

こころの未来研究センターの設立と課題
こころの未来研究センター長　吉川左紀子……2468
〈大学の動き〉
東アジア研究型大学協会（AEARU）第13回総会・第21回理事会の開催……2470
全学教育シンポジウム「京都大学における教育の将来像問うー第Ⅱ期中期目標の策定に向けて学部・大学院教育の現状と課題を考察するー」を開催……2470
部局長の交替等……2471
〈部局の動き〉
寄附研究部門の設置……2472
〈寸言〉
忘我の調べ　笹岡隆甫……2473
〈随想〉
私のフロンティア
名誉教授　和田英太郎……2474
〈洛書〉
富も徳もある社会　田中秀夫……2475
〈話題〉
青山審議官が宇治キャンパス防災研究所を訪問……2476
オープンホスピタル＝第２回看護フェア＝を開催……2476
故河合隼雄元文化庁長官・名誉教授・元国際日本文化研究センター所長追悼式……2477
〈訃報〉……2477
〈お知らせ〉
宇治キャンパス公開2007
宇治キャンパス60年　こしかた、これから …2478
無料法律相談のお知らせ……2480
〈日誌〉……2480
〈隔地施設紹介〉
フィールド科学教育研究センター
森林ステーション・芦生研究林……2481

京都大学広報センター
http://www.kyoto-u.ac.jp/

隔地施設紹介

フィールド科学教育研究センター　森林ステーション・芦生研究林

芦生研究林は，2003年４月，京都大学フィールド科学教育研究センターの発足に伴い，「芦生演習林」から「森林ステーション・芦生研究林」と改称されました。その歴史は，1921（大正10）年，学術研究および実地演習を目的として，北桑田郡知井村（のちに宮島村ほか５カ村と合併して美山町となる）の共有林の一部に99年間の地上権を設定したことに始まります。

場所は，福井県と滋賀県に接する京都府北東部の山稜地帯に位置し，日本海に注ぐ由良川の源流域にあたる面積4,185.6ha（東西６km，南北７km）が研究林です。

構内に咲くニッコウキスゲ
例年７月初旬にラッパ状の黄色い花をつける一日花

気候的には日本海型と太平洋型の移行帯に位置し，地形的な特徴と相まって，気象条件や動植物の生態系も大変ユニークです。また，ここは暖温帯林と冷温帯林の移行帯のため，植物の種類が極めて多いのも特徴です。これまでに確認された種数は，木本植物（亜種を含む）が243種，草本植物が532種，そしてシダ植物が85種にのぼっています。

図－１　芦生研究林の位置

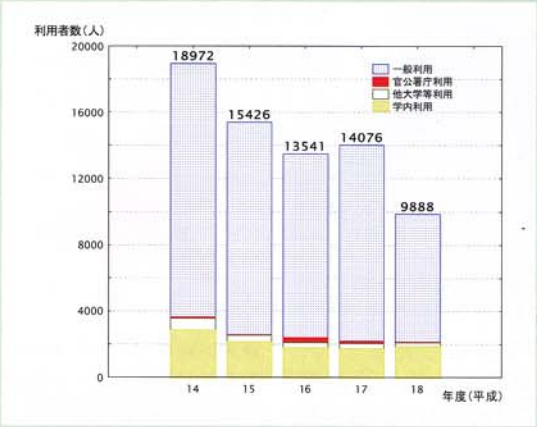
しかし，何と言っても圧巻は，本研究林の90％以上を占めている天然林の存在であり，このような森林は西日本では稀有と言っても過言ではないでしょう。

研究林内の棲息動物として，大型ほ乳類は，ツキノワグマ，カモシカ，ニホンジカ，ニホンザル，イノシシ等，小型ほ乳類は，ヤマネ，ムササビ等に代表されます。鳥類は111種が記録されています。その他，貴重な爬虫類や両生類，新たに記録された蝶類やトンボ類等も確認されています。

教育面においては，全学部・学年対象の教育プログラム，農学部・農学研究科実習，理学部・総合人間学部等学内各学部・研究科実習，他大学実習等の教育プログラム等を実施しています。また，社会教育面にも力を注いでおり一般市民対象の公開講座，地域の親子対象開放事業，官民団体の研修・見学等，毎年多くの利用者を受入れています。なかでも，例年，７月下旬に２泊３日で行う一般市民対象の公開講座は，平成３年の第１回以来，今年で17回を数えるほどになっており，本研究林の代表的な行事になっています。今年は30人の募集に対して40人弱の応募がありました。また，昨年より春・秋に一般市民を対象に日帰りの“観察会”を開いています。募集人数は20人程度の小規模なものですが，研究林の職員自らがアレンジしたメニューによる，アットホームな雰囲気の中での専門的な解説が売り物です。このように，多種多様な要請にも応えられる研究林なのが職員一同の誇りです。

森林組合との合同技術研修

秋の観察会



図－2　過去5年間の利用者数の推移

図－2は過去5年間の研究林利用者数の推移をグラフで示したものですが，学内利用，他大学等利用，官公署庁利用は，いずれもほぼ横ばいの状態であるのに対し，一般利用に関してはこの5年間で概ね減少傾向にあります。これは，社会教育面にも力を注いでいるのと相反するように思われがちですが，研究林は昨今，一般入山者の“オーバーユース”が大きな問題となっています。また，一般入山者の事故の増加という事実も踏まえ，滋賀県側からの一般入林に対する一部規制を実施しました。昨年度の総数が前年度比30%減という大幅な減少になったのは，そのことに起因すると思われます。ちなみに，死亡を含む遭難事故は毎年数件ずつ発生しています。

職員構成

教員1人，事務職員2人，技術職員9人，非常勤職員2人

学生の教育実習および地元小学生の自然体験学習（右端）

研究面においては，これまで本研究林が主体となって行ってきたものとして，

・天然林の再生機構と林分構造の発達および維持機構に関する研究
・森林の環境保全機能に関する研究
・森林の生物的要因や気象要因による被害の解析とその防除法に関する研究
・人工林の育成および収穫技術に関する研究
・森林の多目的利用と森林情報の処理に関する研究

等があります。

なお，2003年度より全森林ステーションに跨る「森林生態系」・「森林環境系」・「森林資源共存系」の3部門からなるプロジェクト研究が新たに開始され，その成果が大いに期待されています。さらに，ＣＯＥプロジェクト研究の一環として，カシノナガキクイムシの病虫害やシカ食害等の研究も展開しています。

現在，研究林の施設としては，構内に事務所，宿泊所，資料館(斧蛇館)，車庫，倉庫，職員宿舎等があります。資料館には，研究林の沿革，植生・地形や気象の概況，ツキノワグマ・カモシカ等の大型動物の剥製等を展示し，平日のみ公開しています。

なお，学生や研究者の利用できる宿泊所の宿泊可能人数は最大35名です。但し，食事のお世話は出来ませんので，自炊ということになります。

連絡先　芦生研究林
住　所　〒601－0703
京都府南丹市美山町芦生
電　話：0771－77－0321
ＦＡＸ：0771－77－0323
http://www.fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/asiu/index.html
E-mail：asiu321@blue.ocn.ne.jp

アクセス
公共交通機関利用の場合
ＪＲ京都駅からＪＲバスで周山，南丹市営バスを乗り継いで約4時間～6時間
京阪出町柳駅から京都バスで広河原(約2時間)，さらに徒歩約3.5時間
自動車利用の場合
京都大学から鞍馬経由で約2時間(約60km　冬期通行止め)
京都大学から京北周山町経由で約2.5時間（約80km　冬期タイヤチェーン）

ご意見・ご感想をお寄せください。
京都大学広報センター　〒606-8501　京都市左京区吉田本町　E-mail：kohho52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp